

6 教育研究等

(1) 訪問教育研究会（訪問教育担当教員講習会）

ア 趣 旨

訪問教育担当教員に専門的な知識及び技術を修得させ、もってその指導力の向上を図る。

イ 参加者 訪問教育担当教員等 42人

ウ 期日及び会場 平成22年8月2日、3日 飯山養護学校

エ 研究内容

(ア) 研究発表、研究協議

- a 児童生徒の実態とその指導
- b 訪問教育、重度・重複教育の実際
- c 教材製作とその活用のあり方

(イ) 講 演

- a 「親として、教師として」

諏訪養護学校教諭 名取 いずみ 氏

(2) 特別支援教育体制整備への対応

国の提唱する特別支援教育体制への移行を見通して調査・研究を行い、特別支援教育コーディネーター養成研修をはじめとする研修会の開催や、「特別支援教育教育課程学習指導手引書」を作成し、幼・小・中・高・特別支援学校や関係機関等へ配布し、理解啓発を図った。

7 進 路 指 導

進路指導連絡協議会において、特別支援学校及び中学校特別支援学級の進路指導上当面する諸問題について関係諸機関と研究協議を行い、生徒個々の進路指導の円滑な推進を図った。

(1) 協議会の構成

特別支援学校、特別支援学級設置中学校郡市代表校長、教育事務所、児童相談所、福祉事務所、公共職業安定所他

(2) 期日・会場

県下4地区で実施した。参加者は262人、提出事例は58件であった。

8 障害児(者)理解

○ 交流教育提携校

特別支援学校と83校の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校等とが提携し、通常の学習、運動会などの学校行事や、児童、生徒会の活動などを通して交流した。

9 研究指定校等（文部科学省特別支援教育総合推進事業）

○ 特別支援学校と小・中学校との交流及び共同学習の推進（22・23年度）

伊那養護学校と駒ヶ根市・宮田村・辰野町との間で行われている副学籍制度を生かした交流及び共同学習と、伊那養護学校分教室と設置校の駒ヶ根市立中沢小学校、駒ヶ根市立東中学校との日常的な交流及び共同学習の取り組みについての実践研究を推進した。

○ 知肢併設校における重度・重複化、多様化に対応する効果的な指導内容・方法の研究（22・23年度）

稲荷山養護学校では、「障害種ではなく、個々の教育的ニーズに応じて」といった考えのもと、知肢混合の生活づくりをすすめるため、3つのブロックを基本とした教育課程編成の有効性について、具体的授業研究を通して検証した。

○ 高等学校における発達障害のある生徒への支援（20・21・22・23年度）

望月高校において、発達障害のある生徒に対する指導、授業及び評価方法等の工夫、発達障害への理解推進を図る方策等についての研究を行い、研究成果を報告、発信した。

10 特別支援教育就学奨励費

特別支援学校に就学する児童・生徒の保護者に対して、経済的負担を軽減する目的で、特別支援教育就学奨励費を支給した。 320,511,172円（国庫1／2以内 149,883,696円）

11 学校評議員

平成14年度から特別支援学校に学校評議員制度を導入した。

1校当たり5～8名程度 全18校に設置